

2020年度冬季における沖曳網でのホンモロコ漁獲物調査

磯田能年・米田一紀・大植伸之

1. 目的

ホンモロコの資源管理を推進していくための基礎資料とするため、産卵直前の冬季に、主要な漁法である沖曳網での漁獲物について体長等を調査し、過年度の結果と比較した。

2. 方法

調査は、2021年1月6日～2月27日に、琵琶湖北湖の沖合で沖曳網により漁獲されたホンモロコ4,954尾を対象に実施した。標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長等を計測し、その後、開腹して、生殖腺を肉眼で観察することにより性の判別を行った。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

年齢構成について、0歳魚が85.18%、1歳魚が13.10%、2歳魚が1.53%、3歳魚が0.18%であった。過年度の結果も含めて図1に示した。2002年、2018年と同様に1歳魚以上が約15%を占めていた。

いても、0歳魚では雌雄比がほぼ1:1であり、1歳以上魚では雌の割合が高いという傾向がみられた。

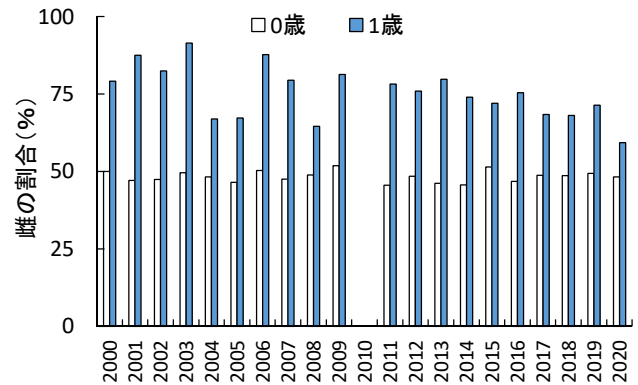


図2 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの性比

体長は、0歳魚では76.02±7.28(平均±標準偏差)mm、1歳魚では95.16±5.65mm、2歳魚では105.84±7.55mmであった。0歳魚について過年度の結果も含めて図3に示した。ほとんどの年度で体長約80mmであったが、2020年はやや小型であった。

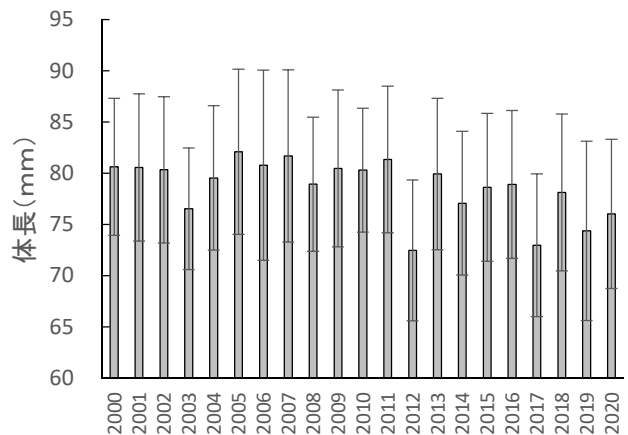


図3 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコ0歳魚の体長

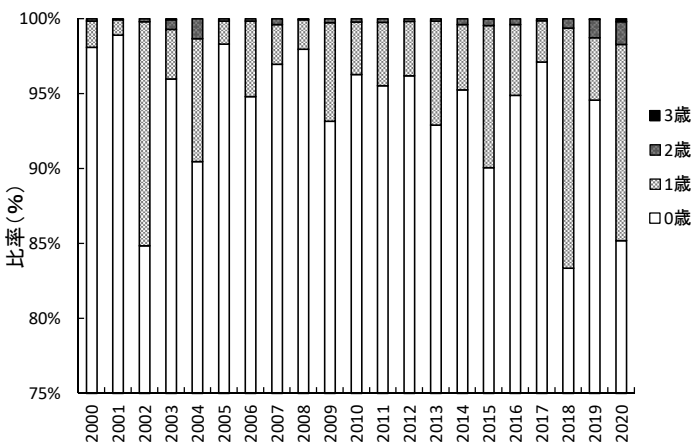


図1 冬季に沖曳網で漁獲されたホンモロコの年齢構成

性比について、雌の割合は、0歳魚では48.3%、1歳魚では59.3%であった。過年度の結果も含めて図2に示した。どの年度にお

本報告は、滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の中で行われた成果の一部である。